

評価項目	重点目標	取組の内容		中間評価		◎学校関係者評価	評価	期末評価	
		・具体的な方策(取組)	★評価の観点(指標等)	○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等			○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
確かな学力の向上	○「教えるから学ぶへ」の移行 (生徒が主語になる授業への転換)	・授業プロセスを以下の3段階とし、実践する。 ① ガイダンスの実施 ② 探求活動 ③ まとめ振り返り	★自己申告における自己評価の程度 ★授業研究(2学期) ★生徒への意識調査アンケート(7月)での、「自分から学ぶ」と思える授業が多い」「自分の考えをまとめ、人に伝えたり発表したりする授業が多い」項目をみる。	○「教えるから学ぶへ」の授業改善は、取組の様子が見られる。 ▽「自分から～」は81%、「自分の考え～」は81.6%が肯定的な回答であった。	●来年度からの全面移行を踏まえ、授業改善の方針を年内にまとめ、3学期中に周知する。 ▼積極的な肯定的回答をどちらも40%以上を目指す。	◎生徒が自分の意見・考えを伝えることはとても大切である。 ◎表現の稚拙さも感じることもあるので言葉の選択や使い方を学べるとよりよい。 ◎学習面においては、学校で習ったことを復習してほしい。	○	○授業改善が、着実に成果として現れた。質問9「自分の～」に対する肯定的回答は85.3%。特に強い肯定が7.7ポイント向上。 ▽質問8「自分から～」が5.2ポイント減少。これは、活動的な授業そのものが目的化し、知的好奇心を喚起できなかった。	●表現活動の質を高める段階へと移行する。生徒間の相互評価や、建設的なフィードバックを通じて思考を深める活動を促す。 ▼授業の導入で、生徒が学習の問いを立てる活動を取り入れたり、単元を通した探究テーマを自己決定できる場を設けたりする。
豊かな心の育成	○リスペクトが見える学校づくり	・言葉、呼称、接遇など、隅々まで配慮した人権感覚の育成 ① 考え、議論する道徳授業の実践 ② 生徒会活動における自治活動の実践	★生徒からのアンケート(ふれあい月間) ★学校公開による保護者からのアンケート ★生徒への意識調査アンケート(7月)での、「リスペクトの精神で、相手の人格を大切にし、お互いを認め合っている」項目をみる。	○アンケート等からは学校の指導に対する「熱心」「きめ細かい」という保護者の感想が伝わる。 ▽「リスペクト～」は97.8%の肯定的な回答が得られている。	●ふれあい月間を利用し、生徒に日ごろの人間関係を見つめ直させるとともに、リスペクト・相互尊重の考え方を徹底的に周知する。 ▼上記の取組により、積極的な肯定的回答60%以上を目指す。	◎人格を尊重するという事は社会で生きていくにとっては必要なことである。 ◎「リスペクト」ができる人間関係もアップしていく。 ◎生徒意識調査から、学年が上がるにつれてリスペクトの精神も増えている。よい組織の傾向である。	○	○「リスペクトの精神」は、深く根付いている。質問5「リスペクト～」は95.2%と極めて高く、強い肯定も増加している。 ▽ただし全体的には僅かな揺らぎも見られるため、理念の形骸化を防ぎ、具体的な実践へと繋げるための継続的な働きかけが必要である。	●生徒の自治的な活動として、生徒会が中心となり「リスペクト」を具体的な行動目標に落とし込むキャンペーンを企画・運営させる。 ▼道徳の授業や学級活動において、意見の対立、友人間のトラブルなどを想定し、相手の立場を尊重したコミュニケーションスキルを実践的に育成する機会を増やす。
体力の向上	○健康的な身体育成	・保健体育を中心として体を動かす楽しさを実感させる。 ・区の施策を活用し、運動への関心を高める ・保健と家庭科を連携させ、正しい食習慣を身に付けさせる。	★生活習慣調査 ★新体力テスト ★生徒への意識調査アンケート(7月)での、「体力向上のために、何か取り組んでいる」項目をみる。	○食育は栄養士を中心に計画的に行うことができている。運動面に関しては、生徒会の企画なども含めて努力はしている。 ▽「体力向上の～」の否定的回答が21.6%であった。	●日常の地道な取組は継続していく。体育の授業で、意識的に運動に取り組めるような活動を行わせる。 ▼上記の取組により、否定的回答を20%未満にする。	◎運動会をみたが、生徒全員が楽しそうに積極的にとりこんでいた。	○	○質問16「体力向上のために～」において、積極的な回答が49.7%へと微増した。継続的な働きかけが一定の効果を上げている。 ▽否定的な回答の割合が21.7%と横ばいで、目標を達成できなかった。体力向上に無関心な生徒層へのアプローチが課題である。	●高い意識をもつ生徒がより高レベルの取組を意識的に挑戦できるような授業の仕組みを作る。 ▼運動への関心が低い生徒層に対し、「運動＝楽しい」という実感を伴う機会を創出する。生徒会の取組を活用し、有志参加型のイベントで提供する。
創意工夫ある教育	○登校支援による社会とのつながりを目指した教育 ○国際理解教育の充実	・登校支援委員会を設置し、社会とのつながりがもてない生徒を0にする。 ・外国をルーツに持つ生徒への合理的な配慮及び日本文化の理解の推進	★生徒の生徒の授業アンケートやふれあい月間アンケート ★生徒への意識調査アンケート(7月)での、「大人になったら、自分は社会の役に立つ」項目をみる。	○登校支援委員会で、全生徒が何らかの形で社会とのつながりをもっていることを確認した。 ▽「大人に～」の積極的肯定回答は28.9%であった。	●係活動や分担を徹底して行い、生徒の自尊感情、自己有用感を計画的に育成する。 ▼上記取組を徹底して行い、積極的肯定回答を30%以上に上げる。	◎自分が誰かのために役立つという実感を持つことや持たせる活動をさせるのはとても大切である。	○	○質問7「大人に～」で強い肯定的回答が31.3%へと、数値目標を達成。係活動などで役割遂行を通感できる場面が増えたため。 ▽その意識が全体に広がっていない。肯定的回答が71.7%へと僅かに減少。	●係活動や委員会活動、学校行事での役割について、活動後に文章や対話で振り返る機会を設け、自己有用感を具体的に実感できるよう支援する。 ▼全学年で発達段階に応じたキャリア教育を計画し、社会貢献の多様な形を学ばせる。
地域連携	○地域が参画する学校運営	・教育活動に必要な情報収集及び情報発信 ・地域協働学校運営による学校の抱える課題の共有化	★本校ホームページによる保護者・地域への発信(校長日記等) ★地域協働学校からの意見聴取 ★生徒への意識調査アンケート(7月)での、「学校の授業や行事の中で、地域の人から様々なことを教わったり、一緒に活動したりしてみたい」項目をみる。	○学校だよりホームページ更新は定期的に行うことができた。地域協働委員会も順調に行うことができている。また、地域のフェスティバルに生徒会本部役員が運営として参加することができた。 ▽「学校の～」の肯定的回答は72.0%であった。	●年度末にかけての地域協働学校運営委員会に、生徒会本部役員を参加させ、地域の方と生徒が学校に関する意見を交換する場を作る。 ▼生徒が地域と交流する場を積極的に作ることによって、肯定的回答80.0%以上を目指す。	◎若保育成会のスポーツフェスタに生徒会の役員が参加してくれた際に、とても意欲的であり、意識の高さが素晴らしいと感じた。今後も地域との連携を深める活動をしていきたいと感じた。 ◎花いっぱいプロジェクトには多くの生徒が参加してくれた。 ◎図書館のポップ作り等、今後中学生との連携を深めていきたい。	◎	○質問19「地域～」に対する肯定的回答は71.7%と、維持されている。地域のフェスティバルへ生徒会役員が運営スタッフとして参加したことは、実績になった。 ▽肯定的回答率はほぼ横ばいで中間評価の目標であった「80.0%以上」には届いていない。生徒の意欲は高いものの、それを満たす具体的な活動が不足している。	●単発的な連携から、生徒が学校運営や地域課題に主体的に関わる仕組みへと発展させる。地域協働学校運営委員会に生徒の視点から学校運営や地域連携について意見交換を行う場を正式に設ける。 ▼職場体験以外にも、生徒が地域社会で実践的に学ぶ機会を、教育課程内に計画的に位置付ける。
働き方の改革	○校務の見直しによる働き方革命	・校務の見直しによる効率的な行事運営と引継ぎ ・常態化した残業や休日出勤への意識改革 ・有給休暇の取りやすい職場環境の醸成	★自己申告での自己評価 ★勤務時間超過によるセルフチェックシートの授受を0にする	○職員の夜9時以降の在校がほとんどなくなった。また校務改善の全校的取組を始めることができた。 ▽勤務時間にたいしての意識改革はまだ道半ばである。	●校務改善と職員の意識醸成を両輪として計画的に押し進める。 ▼上記の取組を徹底し、夜8時までに職員が帰れるような職場を作る。	◎働き方を改善する方法としてTOYOTAの「なぜ」を5回繰り返すことで核となる原因を探る工夫等を進めるのも一つ。 ◎ライフワークバランスを考える上で、持ち帰りの仕事はどれくらいあるのか、材工時間を減らすだけではない。	○	○校務改善に向けた全校的な取り組みが開始され、組織的な時間管理と業務効率化への意識が一定程度浸透した。 ▽勤務時間内に業務を完結させるという意識や、業務の優先順位付け、不要な業務の削減といった本質的な改善が必要。	●校務改善の分掌を立ち上げ、会議運営の効率化や、ICTを活用した情報共有収集・横展開し、組織全体の生産性向上を図り、生徒に寄り添う時間を増やす。 ▼ゼロベースで見直し、前年度踏襲を排して業務の聖域なき削減を断行する。

